



学校規模の適正化と 適正配置にかかる保護者会



第2回 保護者会の概要

開催内容

日時

2018年11月21日(水)
19:00~20:30

場所

手熊小学校 ランチルーム

参加者

15名(在校生保護者13名、
新入生保護者2名)

プログラム

- ・登下校の安全講話(手熊町駐在所さん)
- ・これまでの統合後の対応(市教育委員会提供資料)
- ・登下校の安全について考えてみよう
- ・みんなの意見を共有しよう

第2回の保護者会では、「登下校の安全」をテーマに、第1回もお手伝いいただいた「長崎県ながさきファミリープログラムファシリテータの会」のみなさんにファシリテーターをお願いし、終始和やかな雰囲気の中で会を進行することができました。

今回は、まず「統廃合した場合の登下校の安全」について、考えられる事項や課題を出し合い、それらを改善したり、解消したりするアイデアを掘り下げて考えました。その中には自分たちでできることもあれば、自分たち以外(行政・交通会社・地域)に要望したり、提案できるような意見も多くあり、子供たちの命に直結する登下校のあり方を自由な発想で、真剣に考えました。

また、これまで統廃合を行った学校で実施された安全対策、バスの増便、停留所の増設などの対応やその後の様子について、市教育委員会から提供された資料を使って共有しました。

これらの意見やアイデアを踏まえ、統廃合の様々なメリット・デメリットを十分理解したうえで、手熊小学校について、どうすべきか保護者同士で話し合いました。



保護者会の前には手熊町駐在所さんにもご協力いただき、登下校時の危険対策や近隣地域の不審者情報提供など、地域を守るプロの視点から講話をいただきました。

中でも「児童たちの登下校時には、保護者や地域の見守りが非常に重要で、これからも継続していくことが大切です！」という言葉に、みなさん深く共感されていました。



過去の対応（市教育委員会提供資料）



■過去の学校統廃合に伴う通学面の対応について

<p>尾戸地区</p> <p>H30.4 に尾戸小学校を長浦小学校へ統合</p>
<ul style="list-style-type: none"> 統合当初の1週間程度、旧尾戸小学校の児童の通学について、教職員と教育委員会の職員により、バス停での乗り降りの状況やバスに同乗して通学の様子を確認している。その結果、特に支障はなく、児童は円滑に通学している。なお、下校時においては、教職員等がバス停まで見送ってバスの乗車状況を確認しており、学校より、現在まで特に問題ないとの報告を受けている。 通学距離が小学校で4km以上、中学校で6km以上の場合は、通学費の全額補助の対象としており、旧尾戸小学校区についても距離要件を満たしているため、全額補助を行っている。 交通空白地を解消するため、バス停を新設し、コミュニティバス路線を延伸した。 低学年の下校時間に合うバスの便がなかったため、コミュニティバスを増便した。 始業式等早い時間に下校するときに備え、臨時便を手配した。
<p>外海地区</p> <p>H27.4 に神浦中学校を黒崎中学校へ統合（H31.4 に旧出津小学校跡地へ移転予定）</p> <p>H28.4 に出津小学校を黒崎東小学校へ統合</p>
<ul style="list-style-type: none"> 尾戸地区と同様に、統合当初の1週間程度、旧出津小学校の児童の通学時にバス停での乗り降りの状況や、バスに同乗して様子を確認している。その結果、児童は支障なく通学している。低学年については、統合時から現在に至るまで、教職員がバス停まで見送ってバスの乗車状況を確認しており、学校より、現在まで問題ないとの報告を受けている。 通学距離が小学校で4km以上、中学校で6km以上の場合は、通学費の全額補助の対象としており、旧神浦中及び旧出津小学校区についても距離要件を満たしているため、全額補助を行っている。 下校時刻に合わせてコミュニティバスの増便及びダイヤ変更を行った。 通学に利用するバス停の一部を移設するとともに、新中学校に近い場所にバス停を新設し、必要な整備を行っている。
<p>野母崎地区</p> <p>H22.4 に野母崎地区4小学校（高浜小学校、野母小学校、脇山小学校、樺島小学校）を統合後、H26.4 に小中一貫校「青潮学園」を開校</p>
<ul style="list-style-type: none"> 尾戸、外海地区と同様に、統合当初の4日間程度、旧高浜小学校、脇山小学校及び樺島小学校の児童の通学時にバス停での乗り降りの状況や、バスに同乗して様子を確認した。なお、低学年については、統合時から現在に至るまで、教職員がバス停まで見送ってバスの乗車状況を確認しており、学校より、現在まで問題ないとの報告を受けている。 海岸近くの道路を通学路としており、徒歩通学に適さないため、バス通学を認め、通学費の全額補助を行っている。 4小学校の統合当時、野母崎高校の通学時間に合わせた路線バスの便があったため、高校の廃校後も小中学生の通学対応便として引き続き運行するよう要望し、現在も運行している。 青潮学園そばにバス停を移設し、バスベイ（バスが停車するためのスペース）を整備した。

過去に学校統廃合を行った事案の通学面の対応について市教育委員会適正配置推進室より資料を提供いただき、どのような対応が行われたのか情報を共有しました！

事例には統廃合後、「バス通学に児童たちが慣れるまでの付き添い」「下校時の先生によるバス停までの見送り」「コミュニティバスの路線延長や増便」「バス停の移設や待合スペースの増設」など、様々な対応が行われていました。

「登下校の安全は子供たちの命に直結する大きな課題」であり、もし統廃合を行うとすれば、手熊地区の要望や提案をしっかりと整理し、実施に向けてしっかりと交渉していく必要があります！そこで、今回は統廃合賛成・反対の立場を問わず、みんなで手熊小学校に必要な対応を考えました。



行政への要望

- ① スクールバスの導入
- ② 路線バスの増便
- ③ 通学に係る費用の補助
 - ⇒ 4 km 以上 100% 補助
 - ⇒ 2 ~ 4 km 50% 補助 (個別補助あり)

安全性や乗車時間の融通、乗車場所の柔軟性など、やはりスクールバスが一番望ましいとの声が多くあがりました。

また、現在の長崎バスを利用するのであれば利用増による対応（増便）や待合スペースに課題があります。

行政への提案

バス停の移設（待合スペースの増設）

現在のバス停は待合スペースがほとんどなく、雨の日であれば児童が2～3人以上いると、道路にはみ出して待たなくてはならない状況で、とても児童たちが集団で安全にバスを待てる環境にはありません。

そこで地元目線での子供たちの安全を確保できるような提案ができたらとの意見が出ました

ので、バス停の移設候補地を手熊町の消防団詰め所横、舞岳荘の前のスペースを活用できたらよいのではないかと考えてみました。

現在のバス停からも近く、もし公共用地であれば、移設費用も少なく済むのではないのでしょうか。

また、新通学路での危険調査パトロールや登下校時の大人の見守りなど、「地域との連携」の必要性や「親のしつけ」の強化、「先生たちの協力」など様々なアイデアがでました！

「こういったアイデアを活かしながら課題を解決しなければ、子供たちを安心して学校へ通わせることができないなあ～」と実感しました。



現在のバス停の様子



移設候補地の様子

親のしつけ

- ①早寝、早起きの習慣付け
- ②バスのマナーの習得
- ③バスの待ち時間の行動（がまん）
- ④バスへ乗り遅れた、乗り過ごした時の対応
- ⑤忘れ物をなくす（取りに戻れない）

他にも、登下校時の様子が保護者に伝わるよう、見守りホットライン（ポット）のような機能がランドセルにつけられたら、子供の状況を把握できて安心ではないか…とか、バス停に子供たちが通学で使用していることがわかる果物モニュメントを置いて、ドライバーに安全運転を促すなど、ユニークな意見も数多くでていました。

地域との連携

- ①登下校時の大人の見守り
（知らない人との接触（誘拐）の防止）
- ②通学路の危険調査
統廃合を想定した調査を行い、問題点を把握したうえで判断をする。

先生たちの協力

学年ごとに、下校時バス停までの付き添い

保護者会の様子



今後の予定

これまで2回の保護者会の意見を育友会執行部でまとめ、今後は地域との協議に進みたいと思っています。協議を行うメンバーや日程については決定次第お知らせします。